

日本イベントプロデューズ協会設立20周年記念事業
イベント企画提案
“ニコリグット”な高齢社会づくりキャンペーン

J E P C 設立20周年記念フォーラム

2006年11月17日
東京・明治記念館

五十嵐 義明

(株)リベルタス・コンサルティング 取締役・上席コンサルタント

LIBERTAS
● ● ● ● ● ● ● ● ● ●

<http://www.libertas.co.jp/>

“高齢者の目線”とは・・・

「高齢者の目にはどう映っているか」という観点から、物事を見つめ直すこと。

高齢者の身になって、社会状況の良し悪しを評価すること。

誰もがいつかは高齢者になるという現実をかみしめつつ、老若男女が皆で在るべき高齢社会を展望すること。



大多数の人々が、この“高齢者の目線”の大切さに賛同してくれるはず。



しかし、いま我が国でこの“高齢者の目線”が、日常生活あるいは福祉や医療などの現場において、十分に意識されているだろうか？

『日本経済新聞』2006年8月10日付 朝刊社会面の記事「あわや医療事故18万件」

- ・ (財)日本医療機能評価機構の調査によれば、一歩間違えれば医療事故になりかねない“ヒヤリハット”事例が、2005年の1年間に約18万件発生した。

調査対象は全国の国立病院や大学病院など約250医療施設。

- ・ ヒヤリハットの発生要因（上位5要因）は次のとおり。

第1位	確認不十分	26.1%	第4位	勤務状況	9.3%
第2位	観察不十分	13.3%	第5位	判断ミス	7.7%
第3位	心理的状况	12.6%			

【ウっかり(不注意)の蔓延が示唆する“高齢者の目線”の欠如】

- ・ ヒヤリハットを引き起こしている要因の1, 2, 5位はウっかり(不注意)である。これらの3つが全体の5割弱を占めている。
- ・ このことは、医療現場で“高齢者(を含む病気の人々)の目線”が決して十分には意識されていないことを示唆している。介護や福祉の現場も似た状況にあるかもしれない。

活力ある高齢社会の実現は国家的な課題



“活力”とは？

人の活動の原動力となるバイタリティー（生气、気力）である。



高齢者の“活力”は、日々の“高齢者の目線”の実践から生まれる。

ヒヤリハットといった暗くネガティブな面の除去だけでは不十分。
(必要条件であって十分条件ではない。)

高齢者が明日への生きがい、張り合い、楽しみを見出せるよう、
明るくポジティブな面を家庭、地域、国が創出する必要がある。

病院、政府、企業等はときとして高齢者に対し機能性や安全性ばかりを重視する傾向がある。サービス提供に際して“高齢者の目線”が抜け落ち、必要条件の達成でこと足れりとしがちである。しかし、それだけでは高齢者の活力は高まらない。

これからは事故が無い安全な社会を目指すことに加え、“**高齢者の目線**”に基づいて、**「人生を楽しむ」ことができる社会をデザインするべき**である。

活力ある高齢社会への条件

… 高齢者が明日への生きがい、張り合い、楽しみを見出せるよう、明るくポジティブな面を生活の随所で創り出していくこと。

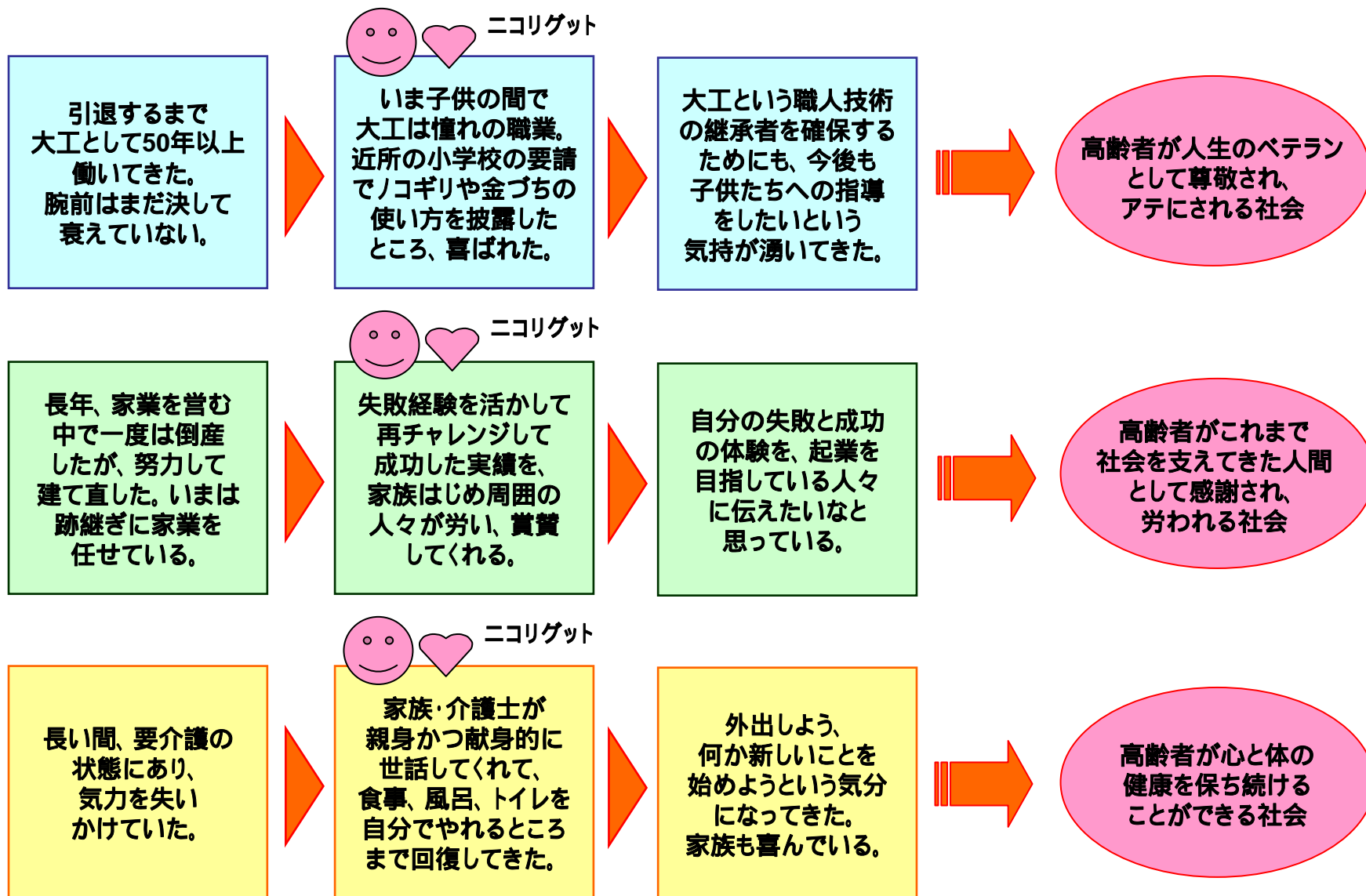


“ニコリグット”の提言

(株)リベルタス・コンサルティングは、こうした現状認識から、人がニコリと笑ったりグッと感動する場面や体験を“ニコリグット”という造語で表現し、あらゆる人々（とりわけ高齢者）が1つでも多くのニコリグットを感じられるような社会の形成を提言します。

ニコリグットの根底には、常に、冒頭で触れた“**高齢者の目線**”がなければなりません。

ニコリグットの創出は高齢者だけでなく、**国民各層が協同して取り組むべき課題**です。



『産経新聞』2006年10月3日付 朝刊コラム「正論」 一部抜粋
論者：水野 肇（医事評論家）

「ニコリグット」という造語がある。あるシンク・タンクが考案した言葉だそうだが、その意味は「これからの社会はお年寄りが、ニコリと微笑んだり、胸にグッときて感動するようなことを展開しなければならない」ということだそう。

『信濃毎日新聞』2006年10月29日付 朝刊 一部抜粋

「ニコリグット」は日常生活の質を高める意図がある。柱は尊敬・感謝・健康の3つ。
人生のベテランとして尊敬され、当てにされる
これまで社会を支えてきたことに対し感謝され報われる
心身の健康を保ち続ける
ことで、お年寄りにとって「元気が出る社会」の構築を目指す。
今後広がるか、注目される。

イベントを通じたキャンペーンは、ニコリグットの推進と普及に大きく貢献できます。なぜなら、イベントとは本来的に明るくポジティブな取り組みだからです。

全国ニコリグット交感会 ～^{ニコリ}見つけよう笑顔、^{グット}分かち合おう感動～

【目的】全国各地に息づく“ニコリグット”（人がニコリと笑ったりグットと感動する場面や体験）の事例を、様々な形で、老若男女が集う場で交感することにより、ニコリグットへの社会的な理解を深める契機を提供する。

地域、国、企業等による“高齢者の目線”の具体的な実践、体験、ノウハウ等を共有化し、真の活力に満ちた高齢社会の実現へ向けた意識醸成を目指す。

【参加者】ニコリグットの交感が目的であるため、高齢者はもとより、子ども・孫の世代を含む各層の参加を募る。

【形態】単発の“打ち上げ花火”型の大規模イベントではなく、手ごろな規模で、参加者同士の接触を大切にする“参加・交流”型のイベントとする。

【場所】地域性を大切にするため、全国の県庁所在地、地方中核都市、有力観光地、などを想定。

【協賛】都道府県、市町村、教育委員会、社会福祉協議会、老人クラブ、NPO法人、文化・スポーツ団体、趣旨に賛同する企業、などを想定。

全国ニコリグット交感会 ～^{ニコリ}見つけよう笑顔，^{グット}分かち合おう感動～

【実施イベント】（例）

シンポジウム「生き生きと生きてますか？ --- ニコリグット実践のすすめ」

- … “生き生き” は笑顔と感動から。“生き生き” と生きている方々、あるいはそれを支援している各界の方々をパネリストとしてお招きし、様々なニコリグットの実践について語っていただく。

フォト・コンテスト「見つけた、私の小さなニコリグット」

- … 高齢者あるいはその家族から、身近なニコリグットの場面を撮影した写真を出展していただく。投票などにより最優秀作品をニコリグット・フォト大賞に選定。

「ステージイチャン・バアチャン」コンテスト

- … 地元の幼稚園児や小学生の前で、職人技や伝統料理など、長年培った特技を披露してもらい、そのスゴサを子ども達に堪能してもらおう。ビデオなどでの参加も受け付ける。投票などによりチャンピオンを選定。

ニコリグット・サービス窓口

- … イベントの趣旨に賛同する行政機関、企業等の窓口コーナーやブースを設置し、ニコリグットなサービスをアピールしていただく。

全国ニコリグット交感会 ～^{ニコリ}見つけよう笑顔，^{グット}分かち合おう感動～

【来場者アンケート】 全国の回答を蓄積・分析し、情報発信や政策提言に活用する。

あなたにとってのニコリグットは何ですか？（場面・経験を回答）

いまのあなたの生活で、ニコリグットを邪魔しているものがありますか？
あるとすれば、それは何ですか？

最近、あなたはどんなことで笑いましたか？

最近、あなたはどんなことで感動しましたか？

【高齢者への質問】 あなたから若い世代への要望・助言

【若い世代への質問】 あなたから高齢者への要望・メッセージ

ニコリグットな高齢社会を作るうえで、政府や地方自治体に何を望みますか？

【全国ニコリグット交感会 開催計画(案)】

時 期	開催地	開催協力	規 模
2007年3月	兵庫県内	福祉団体等	500人
2007年5月	宮崎県内	行政・商工会議所・地元企業	300人
2007年6月	長野県内	地域の有力紙	1,000人

2007年中に、上記3回を含む計5回程度の開催を予定。
1回当たりの費用は規模等にもよるが、5回分で500万円程度と想定。
費用は協賛金等から捻出する。

【さらなる活動展開】

ニコリグットの理論構築・普及・・・新聞・雑誌への寄稿、書籍出版

ニコリグットのイメージ定着・・・キャラクターデザイン、グッズの作成